

経営比較分析表

佐賀県 鹿島市

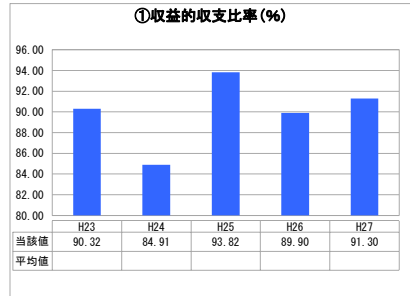
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	33.19	93.65

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,523	112.12	272.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
10,078	2.85	3,536.14

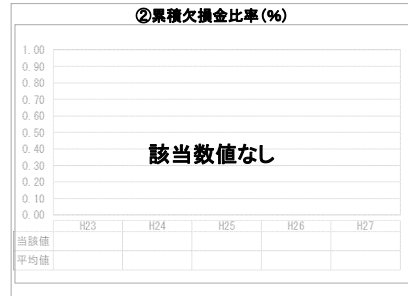
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 当該団体平均値 (平均値)
- 平成27年度全国平均

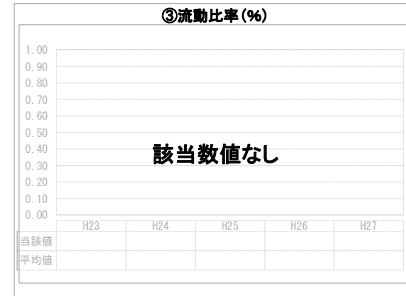
1. 経営の健全性・効率性



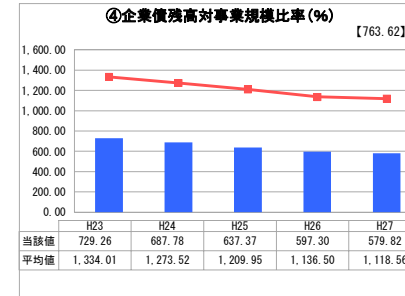
「単年度の収支」



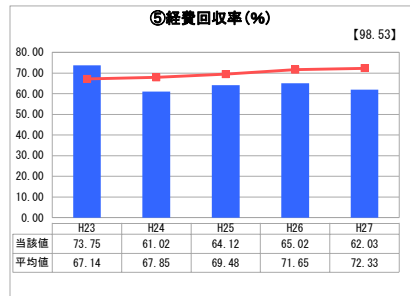
「累積欠損」



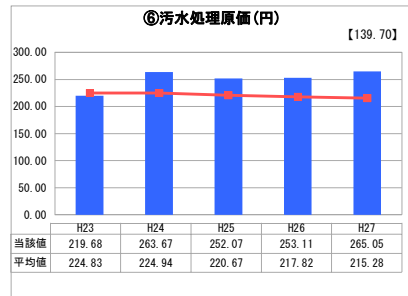
「支払能力」



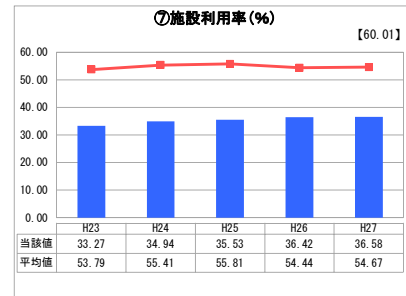
「債務残高」



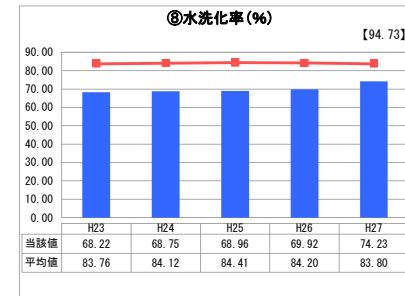
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

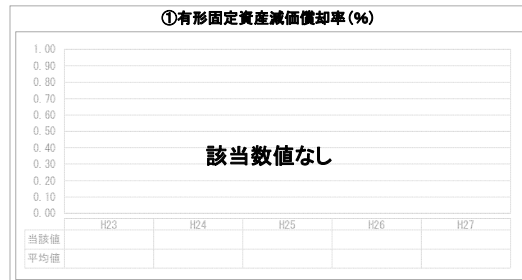


「施設の効率性」

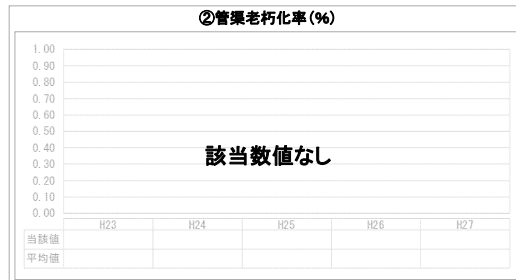


「使用料対象の捕捉」

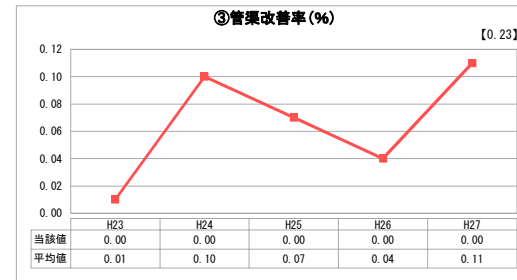
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

昭和61年度の事業開始以来、30年が経過していますが、事業進捗率は43%と低いため、施設利用率が類似団体平均値を下回っています。今後、必要に応じた適切な施設規模を考える必要があります。

企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値より低いのは、財政上の制約などから投資額を抑えてきたことが影響しています。

今後も引き続き低コスト型下水道を利用して事業を進捗させ、接続者数(料金収入)を増やし、経営の効率性の向上(経費回収率の向上や汚水処理原価の低減など)を目指します。

2. 老朽化の状況について

平成6年度の供用開始以来、22年が経過し、機械・電気設備に耐用年数を経過したものが出てきていますが、これまで十分な更新を行っていないのが現状です。

今後はストックマネジメント計画に基づく計画的な更新を実施し、持続可能な下水道事業を目指します。

全体総括

本市の公共下水道事業は、雨水対策を優先して行ってきたため、汚水事業の進捗状況が遅く、浄化センターなどへの投資に見合う十分な接続者数を確保できていないことが、収益的収支比率・経費回収率・汚水処理原価・施設利用率の悪化につながっているものと分析します。

今後は、全体計画区域を見直し早期概成を目指すとともに、接続者数を増やし経営の効率化に努めます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。